

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第6週（2月8日～2月14日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、3密の回避が重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症 増加」

第6週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 980例であり、前週比 3.3%減であった。前年同週比では 47.3%減（2020年 第6週 1,859例）であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.14、0.59、0.54、0.34、0.15であった。

感染性胃腸炎は前週比 5%減の 615例で、南河内5.75、中河内4.35、北河内4.31、泉州3.95、大阪市南部3.53である。

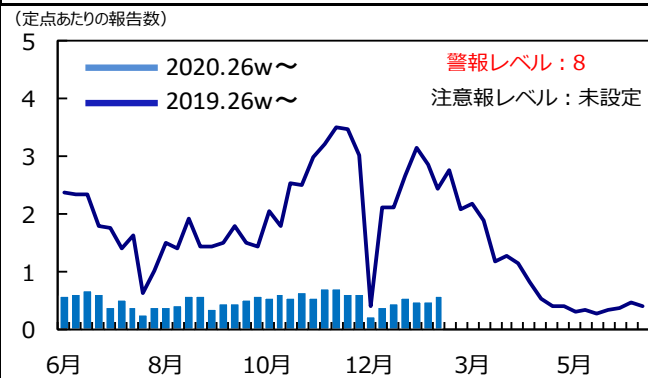
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比 20%増の 116例で、中河内1.30、泉州1.15、大阪市南部0.88であった。

RSウイルス感染症は前週比 15%増の 105例で、大阪市北部2.79、中河内0.95、大阪市東部0.67である。

咽頭結膜熱は前週比 42%減の 30例で、泉州0.30、中河内・南河内0.25であった。

インフルエンザは2例で、定点あたり報告数は0.01であり、昨年同週（2020年 第6週 3,413例）に比して著減した状態が続いている。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



RSウイルス感染症

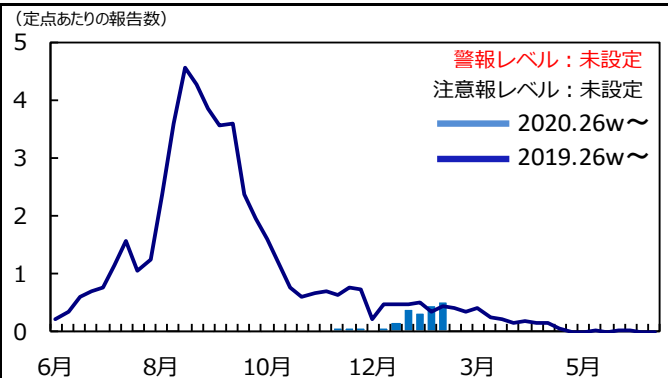


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第6週2月8日～2月14日）

第6週の順位	第5週の順位	感染症	2021年 第6週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第6週の 定点あたり 報告数	2021年第6週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.14	5%減	4.79	1歳_15%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.59	20%増	2.75	3歳_16%
3	3	RSウイルス感染症	0.54	15%増	0.35	1歳_41%
4	4	突発性発しん	0.34	15%減	0.28	1歳_65%
5	5	咽頭結膜熱	0.15	42%減	0.46	1歳_40%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	33%減	11.38	2歳9歳_50%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2020年第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第6週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 2020年の大阪府の報告数は、22例であった。

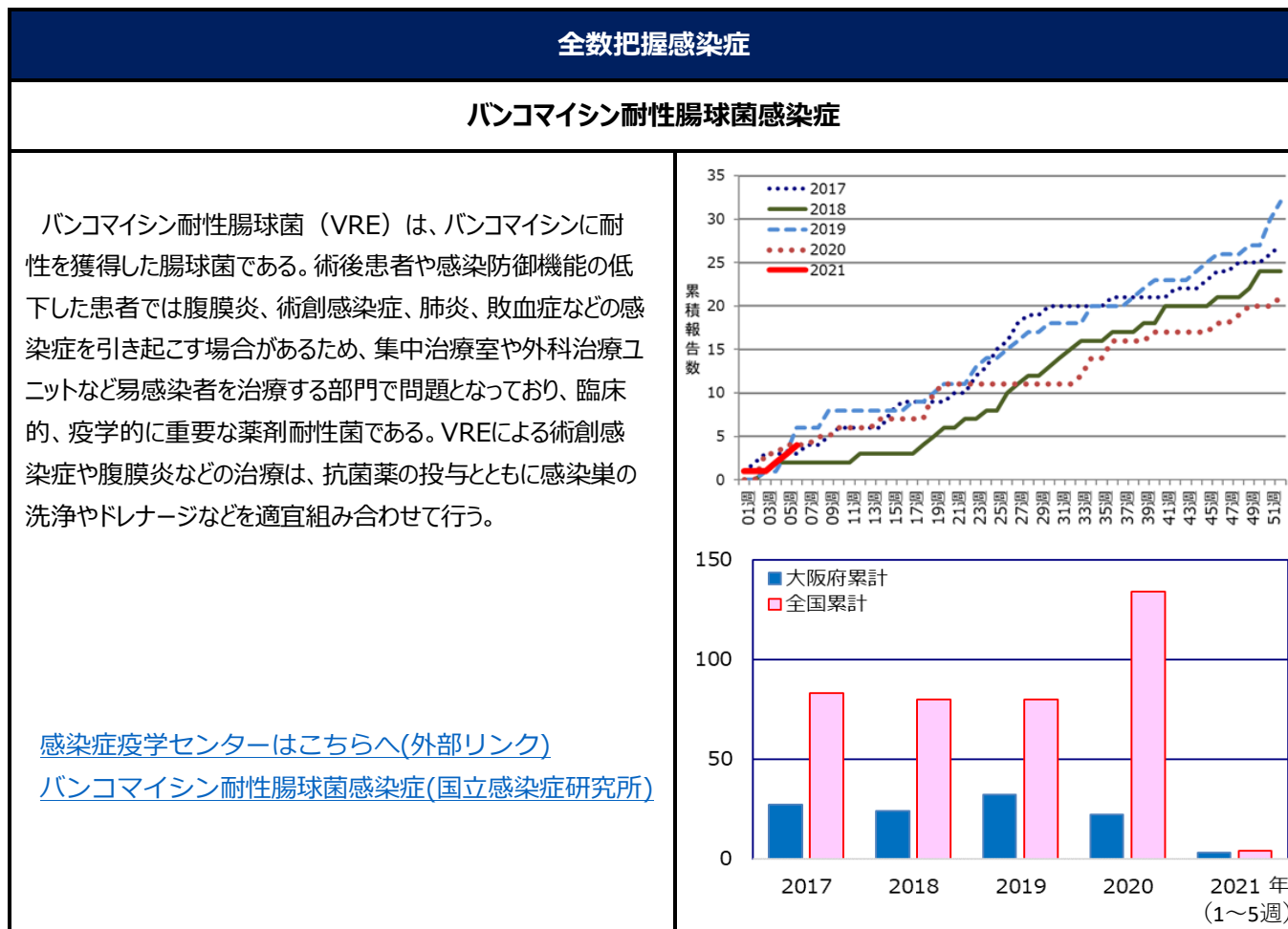


表2. 大阪府全数報告数（2021年 第6週2月8日～2月14日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村								府内累積報告数
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	
3類感染症	細菌性赤痢	1				1					1
	腸管出血性大腸菌感染症	1				1					12
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2		1						1	10
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1					1				13
	急性脳炎	1			1						1
	梅毒	8				1			7		73
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1			1						4
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	871	2020年1月以降 累計 45,947								
結核 (2020年12月分)	結核 新登録患者数：114名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 39名) (府内累積報告数 1,416名、内 肺・喀痰塗抹陽性 543名)										

(2021年2月16日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。